

「令和6年度 大分県臨床研修医 合同研修会」を開催しました。

2024年8月31日に令和6年度 大分県臨床研修医 合同研修会をレンブラントホテルにて開催しました。本研修会は大分県内で初期臨床研修を行っている、主に1年目の初期臨床研修医全員を対象に大分県地域医療支援センターが大分県医師会と共催しているものです。会の目的は以下の三項目になっています。

- ① 研修医全員が集まり、研修医同士の交流を通して連帯感を醸成する。
- ② 大分県の医療の現状と問題点を理解し、今後医師として果たすべき役割を確認する
- ③ 県医師会の理念と使命・活動内容を周知する。

今年度は、初期研修医56名(1年目45名、2年目11名)、指導医の先生方10名、その他大分県医師会の先生方、大分県医療政策課の方々も参加されました。8月29日から台風10号(サンサン)の暴風域に入り、30日まで不安定な天気となりました。そのため、交通機関のマヒも考え、特別講演はオンラインでの開催となりましたが、それ以外は現地で開催することができました。天も大分県の臨床研修医を応援してくれているものと思います。

開会の激励のおことばとして河野幸治・県医師会長から初期研修医に向けて、お祝いの言葉が送られました。初期臨床研修の場として大分県を選んでくれたことに感謝すると共に、大分県の地域医療で活躍してほしいという期待のこもった内容でした。

特別講演は大分県地域医療支援センター長であり大分大学医学部長であります猪股雅史先生に司会を務めていただき、総合病院国保旭中央病院 救急救命科 医長 坂本壮先生に「見逃さない救急・見逃さない救急」と題して、ご講演を賜りました。誤診の理由として、疾患が鑑別に挙がっていないことに加えて、病歴や身体診察よりも検査を重要視することで安易な除外を行っていることなど、初期研修医にHi-Phy-Vi(病歴、身体所見、バイタルサイン)の重要性を強調いただけました。珍しい病気だから想起できず誤診するよりも、**common disease** がいろいろな症状で受診するため誤診してしまうということからも、**common disease** をしっかり診れる能力を身に着けることの重要性も初期研修医に伝わったと思います。





佐藤樹一郎大分県知事もご参加いただき、大分県地域医療の現状と課題、研修医全員への期待などを込めた祝辞をいただきました。

大分県で初期研修を行っている医師の方々が、地域医療に貢献する強い思いを今度も持ち続け、大分県の地域医療を担っていただくことを祈念しています。

文責：塩田星児